

# 慶応大学先端研に 9年間 40億超の市税投入は、「自治」の放棄では？

8年たっても 市民への還元なし

# 研究費用の75%が市と 県の税金でまかなわれていた!?

08年ようやく 発表された 研究所の全貌



「動けば変わる。」の草島です。つじ立ちも10年目。毎週続いています。ホームページでは動画メッセージも。どうぞご覧ください。

慶応先端研にまたも3億円の予算計上。富塚市政肝いりの都市戦略として毎年3億円超9年間40億円以上の市税投入の成果として、市は国に対して地域再生計画にバイオ産業で「計40事業者が創業し100人の雇用を生み出す」という目標を示していました。

しかし、今般その目標に対する成果を問うと、市は立地企業数も雇用人数も今後の見通しも一切示さず、立地企業数も雇用人数も税収も今後の見通しも一切示さず、「世界レベルの研究所の所在、活動そのものがすでに意味がある」「若者の交流定着を促進し、本市の価値を高める重要な投資。」とあいまいな答弁をしてきま

した。9年目というのに明確な成果も表さぬ答弁に私は、「年3億ずつの“自治”の放棄をしてきたのではないか。合併後、全部署ですと5%予算削減の中、この40億円の投入が、市民へのサービスや市民のチャレンジを阻害し元気を失わせているのでは？」と問いました。市長は「見解の相違」と答えました。市長は当初、市議会で「研究運営費の支援は、大学全体への実質負担40億円の内だ。本来60億だが土地

の提供で20億円の市の財政負担の軽減をはかれると説明。ところが第一期の5年間で大学関連全体へ37億円の市税投入の後、平成18年からは毎年約3億円超の市税を補助金として拠出し、合併特例債第一号を使った産業支援センター建設(14億円)を含めると大学・バイオ関連事業全体への市負担は、すでに50億円を超えています。07年12月議会の私の一般質問で、市は当初の40億円の実質負担枠を、市民への説明や議会の同意も得ずに

市民を欺いて いないのか?

的にこの鶴岡で慶応が腰を据えて研究を続けて頂く条件」などと繰り返しています。

合併後の市政で、慶応大学のブランド力、研究能力にたよった都市戦略だけが、予算として突出し続けてきました。果たしてこうした事が市民の誇りや希望になるか甚だ疑問ですし、毎年3億円の市税投入が必要な地域戦略は、決して正しい地域経営の姿とは思えません。今、富塚市政の結果責任が問われています。

07年12月議会の私の一般質問で、市は当初の40億円の実質負担枠を、市民への説明や議会の同意も得ずに

# 市民の大切な公園をカラクリに(20億円)

私大の研究所に年3億の市税投入は同規模自治体では皆無。モラルハザードでは？

60億円枠に変更していたことがわかりました。

追求してようやく明らかになった先端研全体の運営費は、平成20年度、11億2千万円。そのうち市と県の補助金「山形資金」7億円と、基金35億の運用益1億4千万円との合計8億4千万円は、運営費全体の75%をしめています。民間投資の動きも見られず、私大の研究所がまるで公設公営の有り様ですが、研究所の成果は、すべて慶応大学に帰属されます。市は、「この『山形資金』が、安定

的にこの鶴岡で慶応が腰を据えて研究を続けて頂く条件」などと繰り返しています。

# 市長は、当初、「研究費支援は40億円の枠」それが60億円に!?

的にこの鶴岡で慶応が腰を据えて研究を続けて頂く条件」などと繰り返しています。

合併後の市政で、慶応大学のブランド力、研究能力にたよった都市戦略だけが、予算として突出し続けてきました。果たしてこうした事が市民の誇りや希望になるか甚だ疑問ですし、毎年3億円の市税投入が必要な地域戦略は、決して正しい地域経営の姿とは思えません。今、富塚市政の結果責任が問われています。

今、富塚市政の結果責任が問われています。

続きは裏面>>> A



月山から庄内浜まで、いかに、ここならではの自然の恵みを活かし、環境と経済が両立した、持続可能な地域社会をつくるか。この10年、ダムや水問題に取り組みながら、ずっと考え続けてきたテーマです。特に3年前からスウェーデンを持続可能な社会に導いた、国際環境NGO「ナチュラルステップ」に学んでいます。08年3月鶴岡で学習会開催、5月にはスウェーデンでの第一回国際エコ自治体会議に参加し、民主的で高福祉、低炭素化社会を実現した「持続可能な自治体政策」を現場で学んできました。明確な目標を設定し、持続不能だった石油

続きは裏面>>> B

# 水道・地下水問題。

水源切り替えから8年。水質悪化が判明。

合併後は一切地下水をブレンドせず、ダム水100%の水道水。草島調べで07年夏08年夏には発ガン性物質 トリハロメタンの値が地下水の17倍、基準値の半分0.05mg/lを超える地域があり、水質悪化が判明。水質、水温安定のため、地下水をブレンドするように要求。(08年6月)地下水について、以前は自主規制がかかっていた水源地域の隣接地で砂利採取がおこなわれ、秩序が失われている事を指摘。次世代に残すべき大切な資源として、砂利採取の規制、水収支の再調査などを提案。切り替え後、約2倍になった水道料金は、人口減少でさらに厳しい状況に。根本の見直しが必要です。

# 農林水産業の再生へ。

CSA、一歩進んだ食育など、消費者と生産者を結んだ、新しいしくみの構築が必要と 考えています。

東京・江戸川区のケーブルテレビで鶴岡市内の農業者の顔が流れ始めました。大都市圏の交流都市を結び、なんとか自治体でも新しい販売宣伝手法を。と具体的に提案した事が一つ実りました。21年度も更に充実されます。元の職場「らでいっしゅぼーや」(有機農産物の宅配会社)からのネットワークもあり、有機農業関連のフォーラムや農業6次産業化の取り組み、山大的講座などで学び、農業で希望をつくる方策を考え続けています。また、林業については、フォワーダーなど高性能林業機械の導入などを委員会提案。21年度、高性能林業機械が一台はいることになりました。

鶴岡の水。自然・農林資源は宝の山。

持続可能な社会へ 鶴岡版グリーンニューディールを。

CSA コミュニティサポートアグリカルチャー：地域で支える農業。「鳴子の米プロジェクト」が有名。「らでいっしゅぼーや」：有機農産物の宅配会社 当時は「環ネットワーク」

# 市内で22億円配るのに、事務費用が6800万円!?

定額給付金。3月議会で討論。

定額給付金。3月議会で討論。市内で22億円配るのに、事務費用が6800万円かかります。結局全国で2兆円配るのに825億円が無駄に。現政府の無策さの象徴の「定額還付金」として有意義に使いましようと考えて討論。

平成13年 9月議会で紹介した大山、下池のカモ、オオヒシクイの豊富さとラムサール条約。ついに昨年10月、念願が叶いました。小学校単位で野鳥観察ができるように双眼鏡の整備。山野草の盗掘防止やギフチョウの採取などを規制する条例を議会で提案。今後、生物多様性のモデルとして環境保全型農業とともに、いかに活かすかが課題。ぜひ来冬はオオヒシクイの飛翔の感動を。



## 大山の上池、下池がラムサール条約登録湿地に。

昨年、三度位の羽黒山伏となりました。



# チャンスを逃すな！ 鶴岡の観光。

映画「おくりびと」のアカデミー賞受賞。ミシュランガイドの羽黒山杉並木の三ツ星、出羽三山丑年ご縁年をいかに活かすか。酒田の積極性と比べ鶴岡はいまひとつ。庄内映画村とのより密な連携と、「心が動く」観光施策の従来の枠を超えた議論を委員会で提案。加茂水族館をお手本に、みんなで地域の「ありもの探し」と「おもしろ」メニュー開拓を。

## ナチュラルステップの持続可能な社会の定義とは

- 1 自然界に地殻から掘り出した物質の量が増え続けられない
- 2 自然界に人間が作りだした物質の量が増え続けられない
- 3 自然が物理的に劣化しない。(生物多様性の尊重)
- 4 人々が満たそうとする基本的なニーズを妨げることをしてはならない。  
基本的なニーズ：生命維持(食、住宅、仕事)、保護、愛情、理解、参加、レジャー、創造、アイデンティティ、自由の9つ。

# こういう時代だからこそ、たよりがいのある役所に。セーフティネットの充実を。

雇用対策、うつ、自殺対策

実は自殺率の高い鶴岡市。失業者の雇用相談窓口で、生活支援対策とともにうつ対策も連携して相談できる、一歩進んだ、頼りがいのあるネットワークの構築をと提案。自殺対策のNPO ライフリンクと連携しています。

### >>>表面からのつづき A

## バイオ先進国でも30年赤字垂れ流し。鶴岡は大丈夫？

私はバイオ産業については、08年3月議会で、ハーバード大学教授のゲイリー・ピサノ著「サイエンスビジネスの挑戦 バイオ産業の失敗の本質を検証する」によると先進地



慶応先端研の中。米国製の一台5000万円以上の機器がずらりと30台以上並んでいる。現在150名の研究員。巨額の市税がこうした機器や研究費に注がれている。世界的研究なら民間資金で運営できるのでは？

### >>>表面からのつづき B

依存や環境破壊の社会インフラを、持続可能なインフラへ転換する公共事業への重点投資。スウェーデンではこの10年でCO<sub>2</sub>を8.7%削減し、44%GDPを上昇させていました。ドイツでは太陽光発電をメインに26万人の雇用が生み出されています。これが、地球温暖化対策と雇用・経済を両立させる米国オバマ政権の「グリーンニューディール」(緑の内需)の先駆けです。

議会では公共施設へのペレットボイラーの導入や公共建築物のエコ化を提案。提案の一部は西部児童館への太陽光パネル設置などに反映されました。合併した全域にある、豊かな天然資源と赤川扇状地の水を活かす小水力発電、農林資源のバイオマス、太陽建築、など、鶴岡専をはじめ、優れた人材の芽もあり、この地域が宝の山に思っています。「持続可能な環境都市」鶴岡にむけてみんなでチャレンジしていきませんか。

米国のバイオ産業30年の実態でさえ赤字を垂れ流し続けている状況。こうした産業をこの鶴岡の地域戦略にしているのか。市長はミスリードしていないか。問いました。超先端のバイオ産業は、地域の内発的な発展につながるかは疑問です。地域の既存産業とはほとんど連携せず、喫緊の課題である雇用問題を解決することには役に立たないのではないかと。また研究費の多くを占める高額の研究機器購入費は地域を循環せず、外部に流出しているだけではないかと考えます。

21年度予算全体は1131億9千万円。現在の市の総借金額は19年度末で1646億3千万円、実質公債費比率は17.4%とイエローカード手前。一般会計593億8千万の内、義務的な経費が51.2%と50%越えている、硬直化した予算編成です。財政運営の指針として、合併後の四年間は特に毎年マイナス5%シーリングがほぼ全部署に課せられている厳しい状況。

余裕があるのならまだしも、予算的に「厳しい」といって、旧町村の独自施策を打ち切り、全国的な評価の高い学校図書館の司書は「21年度には4人の臨時職員化が決定されています。ちなみに、地域資源に密着した山大在来作物研究への市の支援は50万円のみです。

そんな中、直接市民サービスとは関係ない慶応先端研への3億円市税投入が優先されています。私は全国のこうした研究所支援について調査しましたが、14万人規模で年間3億円も私大の研究所に市税を投入している自治体は鶴岡だけです。通常はありえない話です。市民の皆さんがこの実態をご存じで、果たして納得されているのか。私は疑問でなりません。ご意見をお待ちしております。

# 災害・防災対策。

神戸での3年間のボランティアが草島の原点。経験を現場で活かし学び続けています。

2007年 3月の能登半島地震、7月の中越沖地震の現場で「テントプロジェクト」など現地で活動。中越沖の柏崎市では、当時災害対策の陣頭指揮をとっていた市民部長氏と協働する機会に恵まれました。能登で効果をあげた地域防災マップ、柏崎で効果的だったミニFMの活用などを提案しました。第五学区をモデルに提言が活用されています。2008年岩手・宮城内陸地震も即日現地へ。災害ボランティアのネットワークで情報交換は続いています。

# 市民の力が発揮できる鶴岡に。

10年間で1万人減る鶴岡だからこそ、自治・協働が必要！

経済と雇用の危機、人口減少、地球温暖化問題など課題は山積です。私はこんなときこそ自治を高め、市民と行政の協働作業で地域の自然・文化資源を見つめ直し、人材を活かし、本音で議論し合い、新しい希望のシステムを生み出さねばならないと考えます。現市政は情報公開も不十分で密室の会議ばかり。提案していた行政評価の導入や棚卸しも進みません。総合計画の策定も公募委員一人も設けず、成果の数値目標も定めずで行政のお手盛り感が否めません。市政は市民が主役。官僚の政治から市民の政治へ。国政も市政も変革の時。「動けば変わる。」

## 情報コーナー

★エコ・ロハスの月刊誌 ソトコト5月号(現在発売中)のグリーンファイターの一人として登場。アルケッチアーノの奥田氏との対談など6ページ大特集。必見です！



★アースディ・カフェ 4.22 「鶴岡版グリーンニューディールを考える」

4月22日(水) 6時半から カフェ Solaiにて。参加希望の方は電話を。コーヒー代500円。

★アースディビーチクリーンアップ 鶴岡 4月26日(日) 湯野浜海水浴場 午前9時北側駐車場集合。

★鎌仲ひとみ監督 映画「ミツバチの羽音と地球の回転」

ぶんぶん通信 No.1. 上映会と監督トーク 5月23日(土) 鶴岡アートフォーラム 会議室 1000円 \*「エンデの遺言」「六ヶ所村ラプソディ」の監督がつくった「持続可能な社会」を考えるドキュメンタリー作品です。要・問い合わせ。

★毎週水曜日。午後6時半より 市政を語る市政カフェ。カフェ Solai コーヒー代500円。